

四谷の

千枚田だより



第 232 号



【既報】あしたのまち・くらしづくり活動賞」に応募、昨年十一月二日、主催者賞を受賞した。

応募のきっかけは、観た目には素晴らしい「四谷の千枚田」であるが、急傾斜地の小さな田んぼを耕す百姓は想像以上の労苦を強いられている割に、メリットは少なく、保存継承にも限りがある。そんな折、平成三十年五月、宮崎県選出の江藤衆議院議員（元農林水産大臣）から棚田支援法案作成の協力依頼があり、「百姓の立場で本音」をお伝えした。令和元年、貴重な国民的財産である棚田を保全し、棚田地域の有する多面的機能の維持増進、持続的発展及び国民生活の安定向上に寄与することを目的とする「棚田地域振興法」が施行された。

同時に、政府は、内閣府、総務省、文科科学省、農林水産省、国土交通省、環境省その他の関係行政機関をもって構成する棚田地域振興連絡会議を設け、施策の総合的かつ効果的な推進を図るための連絡調整を行うこととなった。

（指定棚田地域振興協議会）
指定棚田地域を管轄する新城市は、農業者、農業者の組織する団体、地域住民、特定非営利活動法人その

他を含め、令和三年四月十六日、「四谷の千枚田地域振興協議会」が発足。

農林水産省では、棚田地域の振興に関する取組を積極的に評価し、国民全般に、棚田地域の活性化や多面的な機能に対する理解を目的に、改めて優良な棚田を認定する取組（「つなぐ棚田遺産」ふるさとこの誇りを未来へ）（ポスト棚田百選）を実施。令和四年二月十四日、「四谷の千枚田」も選定された。

波及効果：「中山間地等直接支払制度」五期再加入。「四谷の千枚田地域振興連絡協議会設立」加算措置。「ポスト棚田遺産」認定。超急傾斜農地保全管理加算措置。ほか

保存継承に邁進する百姓にも、やと国（政府）を挙げて支援していただくに至った。そんなことを鑑み、広い視野から応募を思い立った。

応募レポート（かいつまんで）
《表題》四谷の千枚田を地域の宝とした「むらづくり」

かつては千二百九十六枚の田んぼが耕されていたが、昭和四十六年施行の減反政策と経済成長の煽りを受け、平成初期には三百七十枚までに減少、これを危惧した記入者（小山舜二）は平成三年、地域の宝とした保存活動を始動。平成八年には

四百二十枚まで復元、同九年には行政の受け皿として念願の鞍掛山麓千枚田保存会が設立。「ふるさと水と土ふれあい事業」の採択を受け、ふれあい広場や四阿、水車などの施設整備がされた。これまで非効率な棚田に作業道も整備された。自然環境、多様性に富んだ棚田を都市近郊住民の心のオアシス、ビオトープ（生きものの空間）として地域の宝、新城市、愛知県の顔、国民の財産を目指し、「継続は力なり」を格言に活動、位置付けられている。

取組の具体的内容及び成果（効果）
①自然景観 世界の人々をきつと虜にする愛知の風景の一つとして「四谷の千枚田」はゆるぎない地位を築き、都市近郊住民の癒しの場を提供している。また、自然豊かな景観と生物多様性に富んだ場所とし

て国内外ともに定評がある。事例.. 映画「あん」、ドラマ「リリー・ダーク」の撮影場所として、また、COLO 招致活動に貢献、ジブリパーク構想等々。昨年はNHKの「あさイチ」、「おはよう日本」など三本が放送され、民放各社、新聞記事など多彩を極めた。

新城市北西部地域自治区交付金を活用した観光名所案内看板やベンチを設置するなど訪れる人々に「癒しの空間」を与えている。

②体験学習 稲作を通じた農業体験学習（地元鳳来寺小学校・豊橋調理製菓専門学校・JA愛知東農協「こども農学校」）の受入れ。市立鳳来寺山自然科学博物館を始め広範囲に「自然観察会・生物多様性を学ぶ」等々の学習会を積極的に実施している。



③ 企業を巻き込んだ活動 企業は環境に配慮する責務があり、その一環として新城市における一大企業横浜ゴム新城工場の新入、幹部社員研修・ボランティア活動を保存会共々毎年実施（十六年間継続）している。その相乗効果として環境にやさしく育てられた稲藁を工場敷地内で「どんぐり」など広葉樹の育苗の敷き藁として活用、工場内に植栽して排出される二酸化炭素の削減に尽くしている。平成二十四年からは四谷の千枚田全域を調査地点として生物多様性調査（モニタリング）、一十六年からはビオトープ二か所を造成、本年は特定外来植物の駆除作戦など「四谷の千枚田」の環境活動に貢献している。同社と保存会の交流は植樹祭に参加したり、全国規模の奥三河パワートレイル会場整備（沿道清掃）などを通じることにより絆は深い。

また、全耕作面積が三六㌥と規模も小さく販米はほとんどないのが実情で、災害、飢饉に備えた備蓄米を古米として（株）丸八製菓（八雲だんご）に出荷、その古米を地域特産品「千枚田五平餅」として東三河郵便局の宅配品や道の駅などで販売、好評を博している。また、同社の協力を得て平成二十九年から継続している「四谷の千枚田絵画コンクール」は夏休み期間中、小・中学生を対象に実施。これも八雲だんごの大きな協力を得て毎年行っている。また、同社とチームTAKOの協力でも千枚田にリアル案山子を設置、訪れる人々に癒しを提供している。

④ コミュニティ 毎年、六月第一土曜日には「お田植感謝の夕べ」（平成十八年）と銘打って千枚田の農道沿いに千五百本のロウソクを灯し、天空には大輪の花火を打ち上げ、田植への労と、都市近郊住民、地域の絆を図る催しを実施。（コロナ感染症を危惧、三年間中止）

十二月の第二日曜日には収穫感謝祭を実施。搗き立ての餅や捕獲（有害獣）したイノシシの「しし汁」やニホンジカなどを大判振る舞い、「河西 忍の愉快な仲間たち」の奏でる天空のコンサートが催しを盛り上げる。等々、地域ぐるみの活動にいとまがない。

⑤ 地域の絆、むらづくり等は各方面に定評があり、講師、講演の依頼がある。令和元年には中部環境推進五市サミットにおいて「四谷の千枚田環境活動」と題して基調講演。全国農村振興技術連盟主催の令和元年度農業農村整備地方セミナーでは「地域（むら）の宝々四谷の千枚田地域活性化に向けた取り組み」と題して講演。また、季刊誌農村振興（8月号掲載）に提言「地域（むら）の宝を寄稿、新城市立鳳来寺山自然科学博物館に於いて令和二年夏の特別展「四谷の千枚田展」を開催するなど、保存会、地域が一丸になった「むらづくり」が各方面に評価されていると思う。

継続は力なり：
・令和元年度農林水産省「第六回 デイスカパー農山漁村（むら）の宝」

において地域住民ともども住環境整備や各種活動、他の団体を交えた地域振興イベントなどの展開が評価され、コミュニティ部門に選定、受賞式は首相官邸で行われた。同時に東海農政局デイスカパーむらの宝にも選定された。

・令和三年度「デイスカパーむらの宝」では東海農政局個人部門に選定された。冒頭、小山は「紆余曲折」はあったが、『四谷の千枚田』を地域の宝と位置付け、三十余年歩んできた。耕作者、地域住民や行政、企業関係者の皆さんの協力でここまでやってこることができた。今回の受賞は皆さんのおかげで頂いた宝物で、その感謝は言い尽くせないとお礼を述べた。

・特別教科「道徳読本」（ビオトープ。モリアオガエル全六ページに掲載）県教育振興会第四巻「あいち発見コレ、なぐんだ」に資料提供、掲載。現在、「新城の社会科」作成協力。

・情報発信として毎月発行している「四谷の千枚田だより」もこの五月に二百二十五号を発行（新城市の用でも発信）、好評を博している。

・令和三年九月、名古屋ちくさ座で開催された大人の勉強会「歴史と継承」（文化庁地域文化財総合活用推進事業）において講演予定であったが、コロナ感染症対策として動画で配信。並行してソニーストア名古屋で「千枚田写真展」を開催。

以上が受賞応募の概略内容。

【既報】「四谷の千枚田だより」二百二十号に掲載した丸八製菓（八雲だんご）さんからのご寄付を、有意義に活用したいとの思いと、会員の意向を踏まえ、田んぼの畦畔や急傾斜地の法面、荒廃農地などの草刈りにはなかなか買えないが、必要不可欠な「スパイク型足袋靴」がご厚意に見合うと判断し、会員に配布した。会員は思わぬお年玉に「うれしい」とか、一生懸命やらにやあノン…」本当に、ありがとうございました。



行 令和五年一月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文 責 小山舜二